

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.100

2017年8月16日発行

緑に抱かれた病院

さまざまな人が、人生という旅の途中でこの病院の庭にやってきます。緑に寄り添われ、羽根を休め、心と身体を繕い、いのちは息をつくのです。時にはもう一度、勇気を見つけることもあります。

この庭がここまで育つには、赤ちゃんが大人になるほどの時間がかかりました。ボランティアは希望と共に土を耕し種を播き、苗を植え、その成長を見守り続けました。庭は、多くの人の想いと手を必要とします。治療を受ける人、働く人、地域の人、縁ある人が少しずつ支えて下さったことで、今、木々は木陰を作り、花は香り、清々しい空気が満ちるようになりました。



巡る季節と愛情が育てた庭です。医療の現場がこんなにも自由で心地良い庭を持つことは、なかなかありません。

たくさんの物語がここから生まれました。これからも生まれることでしょう。そして訪れた人が楽しみ、手を添えて下されば、この幸福な庭はさらに輝きを増す筈です。

萩尾エリ子

「みどりのゆび」100号に

「みどりのゆび」100号記念ということで、改めて読み返してみましたが、この通信には、グリーンボランティアのすべてが詰まっていると感動しました。

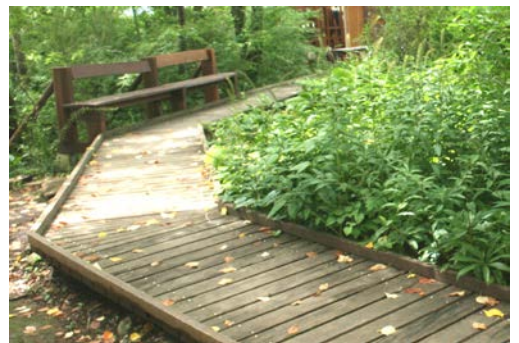
「野原のように」というコンセプトで、貫かれている病院の庭。ただの花好きの主婦の私などは、試行錯誤の連続でした。西のガーデンは、小児病棟から見て子供たちが喜ぶようにと、小さなキッチンガーデンをお家の形に作ったり、イルミネーションやハロウィン等も企画したりしてきました。

エリ子先生の「深刻なご家族の居場所を」というお言葉で、何年もかかって実現した木道とベンチ。御家族といらっしゃる患者さん、読書する方、リハビリする方などに、なくてはならない場所です。

東のガーデンは、病棟増築のために大幅に変わる時がありましたが、今は落ち着き、春はポピーと麦、秋はコスモスが花咲く庭となっています。ハーバルノートから移植されたリンデンの樹も大きく成長しました。

桑折さんの御尽力で「みどりのゆび」100号達成に感謝です。会員の皆様、ボランティアの足跡を是非読み返してほしいと思います。

菰田靖子



活動の記録

7月19日 晴れ

- ・フジバカマ 20株 植え込み
- ・ムギセンノウの種取り
- ・ダリアの所の除草
- ・ラベンダー刈り取り
- ・小児病棟前のブルーソンの剪定



- ・サツキの剪定
- ・ラベンダーの刈り取り
- ・ブラックベリーの収穫
- ・緩和ケアガーデンのラベンダー刈り取りとニチニチソウの植え込み
- ・堆肥切り返し

7月26日 晴れ

- ・東ガーデン芝刈り
- ・葛の除去
- ・堆肥の切り返し
- ・野菜畑のキュウリなどの収穫
- ・ラベンダーの刈り取り



8月9日 晴れ

- ・健診センター前の庭の除草
- ・全体的に蔓性雑草の除去
- ・ブラックベリーの収穫
- ・ラベンダーの片付け
- ・倒れた白樺の木の片付け

- ・ブラックベリーの収穫
- ・図書室前中庭の下の段の除草

(外来待合前中庭)

8月2日 晴れ

- ・東ガーデンの除草
- ・赤そばの種まき



(図書室前中庭)

「みどりのゆび」の始まりとこれから

私は2002年からグリーンボランティアに参加させて頂いていますが、その年の反省会で、こんなボランティア活動があるということを知って貰って、もっとメンバーを増やしていきたい、という意見から、この通信を発行することになりました。2003年の4月から毎年5~8回発行して、今回記念すべき100号となりました。



きっちりした決まり等を作らない、いわゆる『ゆるーい』形でやってきたボランティアグループなので、この通信が唯一の記録になっています。ただ、内容は行事関係や新人紹介が多くマンネリ化していると反省しています。これからは、新しい方々を中心に、内容を充実させて行って頂きたい、と思っています。

萩尾エリ子先生をはじめ、原稿依頼に快く応じて下さった方々に感謝致します。 桑折美智子

